

令和6年度

金ヶ崎町立金ヶ崎中学校の様子

1 学級数

学 年	1 学年	2 学年	3 学年	特別支援	合 計
学級数	4	4	4	4	16

2 生徒数

学 年	男	女	計
1 学年	78	55	133
2 学年	67	52	119
3 学年	73	55	128
計	218	162	380

3 教職員数

職名	人数	職名	人数	職名	人数	職名	人数	職名	人数
校長	1	教諭	23	講師	2	臨時用務員	1	ELT	2
副校長	1	養護教諭	1	非常勤講師	2	特別支援員	3	SC	1
主幹教諭	1	主任主査	1	用務員	1	適応支援員	1	SSW	1

非常勤（含；町費英語指導1）

4 生活時程（6時間時程）

	時 間		時 間
生徒登校	8:20	休 憩	13:10 ~ 13:30
朝読書	8:20 ~ 8:30	5校時	13:35 ~ 14:25
朝短活	8:30 ~ 8:40	6校時	14:35 ~ 15:25
1校時	8:50 ~ 9:40	清 掃	15:25 ~ 15:40
2校時	9:50 ~ 10:40	帰短活	15:40 ~ 16:00
3校時	10:50 ~ 11:40	課外活動	16:05 ~ 16:50
4校時	11:50 ~ 12:40	生徒下校(S・B)	16:55 (17:00)
給 食	12:40 ~ 13:10		

5 進路状況

進路状況（人数）		令和3年度	令和4年度	令和5年度
進 学	公立高校	119	104	96
	私立高校	26	35	33
	特別支援学校	2	1	0
	高等専門学校	6	2	0
	小 計	153	142	129
就 職 等		0	1	1
合 計		139	143	130

6 校内研究

(1) 研究主題「表現力を育てる学習指導のあり方」 ～自分の思いや考えを伝え合う活動を通して～

(2) 主題設定の理由

ア 学習指導要領から

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編に「言語能力の向上は生徒の学びの質の向上や資質・能力の育成に関わる重要な課題として受け止め、重視していくことが求められる。」と示されている。基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用を図り、教育活動全体（授業においては各教科等の指導のねらいを明確にして）で、言語活動に取り組み表現力を育てることで、主体的に学習する生徒を育成できるであろうと考える。

イ 学校教育目標との関連から

本校の教育目標は、「英知 基礎・基本を大切にし、学び続ける生徒【知】」「敬愛 自らを愛し、他への敬いを忘れぬ生徒【徳】」「鍛錬 常に心と体を鍛え、修練に励む生徒【体】」この知徳体のバランスを大切にした生徒の育成を図り、「大志を持ち、路を切り拓く生徒【大志拓路】」である。基礎的・基本的な知識・技能の習得にとどまらず、課題に主体的に関わり活用を図り学び続けること、他者との関わりの中で共に高まろうとする意識を持つことが必要である。そのことが、学力向上を目指す教科指導の充実にも大きく関わるものであると考える。

ウ 生徒の実態から

令和5年度の県学習定着度状況調査によると、国語では、「思考・判断・表現（書くこと）」の正答率は61.8%で県平均より+7.4であるが、「思考・判断・表現（話すこと・聞くこと）」の正答率は55.4%で県平均より-1.7である。数学では、小問正答率を見ると、「14図形の移動を説明する」の正答率は2.6%、「23相対度数を用いて説明する」の正答率は15.5%である。他の諸調査においても無回答率の高さが見られる。

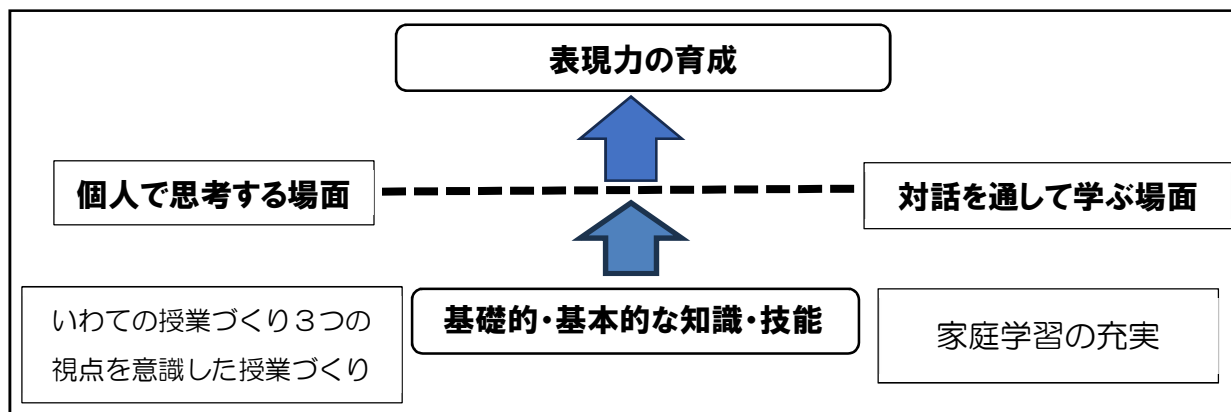
以上のことから研究主題「表現力を育てる学習指導のあり方」、副題を「自分の思いや考えを伝え合う活動を通して」と設定した。

3 研究の目標 表現力を育てるために、効果的な指導方法を明らかにする。

4 研究の内容

(1) 基本的な考え方

「表現力」とは、「思考や感情を相手に分かりやすく伝える能力」である。表現方法として、言葉、文章、表情、ジェスチャーや音楽、絵画、ダンスなどの芸術的なものも挙げられる。表現力を育てるために、各教科において「いわての授業づくり3つの視点」を意識した授業を実践し、「家庭学習」を充実させ、「基礎的・基本的な知識・技能」の習得を図っていく。それを土台として、授業の中に「個人で思考する場面」と「対話を通して学ぶ場面」を位置づける。また、教育活動全体において他者との関わりの中で育んでいきたい。



(2)重点項目

①個人で思考する場面・・・課題を明確にする、既習事項の確認、資料の読み取り、ICT の活用

②対話を通して学ぶ場面・・・仲間との対話、教師との対話、自己との対話、ICT の活用

③学習規律の徹底・・・挨拶、話すこと・聞くこと指導

④親和的な学級づくり・・・Q-U の分析・活用、行事や係・当番活動など

⑤家庭学習の充実・・・毎日の生活記録ノートの活用、予習や自主学習の推奨

さらに、一人一台端末等の ICT 機器も活用しながら、「個別最適な学び」や「協働的な学び」の充実が図られるように努めていく。